



福岡医発第2446号(地)

平成25年1月18日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会長 松 田 峻一良
(公 印 省 略)

第4回非医療従事者に対するAED普及啓発シンポジウム
(福岡会場)の開催について

今般、財団法人日本救急医療財団より標記シンポジウムが下記の日程で開催される旨の通知並びに周知方依頼が別添のとおりありました。

つきましては、貴会におかれましても本件にご了知いただくとともに、貴会会員への周知方につきご高配賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、申込方法は同財団ホームページ記載のフォームに入力してお申込みください。

記

「第4回非医療従事者に対するAED普及啓発シンポジウム(福岡会場)」

△と き 平成25年3月2日(土) 10:00～

△ところ 福岡市南近代ビル

△申込方法 財団法人日本救急医療財団ホームページより

<http://www.qqzaidan.jp/>

△問合せ先 TEL 03-3835-1199

FAX 03-3835-0299

小郡三井医師会より

救急医療担当理事 島田昇二郎
会長 蒲池 壽

日時

平成25年3月2日(土)

第4回 非医療従事者に対する

AED普及啓発 シンポジウム

(福岡会場)

会場▶

福岡市南近代ビル

あいさつ▶日本救急医療財団 理事長 島崎 修次

参加費
無料

第一部

10:10~11:50

「AEDを含む心肺蘇生教育を
学校内で普及するために」

座長/石見 拓 田中 秀治

第二部

12:45~14:30

「AEDを含めた心肺蘇生の
さらなる普及の戦略」

座長/漢那 朝雄 平出 敦

第三部

14:45~16:30

「AEDの設置基準と
データ利用について
今後の方向性について」

座長/横田 裕行 平出 敦

■主催

一般財団法人日本救急医療財団

■後援

厚生労働省、消防庁、国土交通省、文部科学省、海上保安庁、
福岡県、福岡市、福岡市教育委員会、さいたま市教育委員会、
日本赤十字社、日本医師会、福岡県医師会、福岡救急医学会、
福岡市救急病院協会、福岡応急手当て普及の会に申請

本事業は、自賠責運用益拠出事業として実施されます。

シンポジウムの狙い



島崎修次 先生

日本救急医療財団 理事長 島崎 修次

2010年10月に救急医療財団は2010心肺蘇生法（CPR）ガイドラインを発表しました。日本蘇生協議会（JRC）と合同で6カ月近く協議を重ね、世界同時発表を行いました。今回のガイドライン2010で、日本独自のエビデンスが多く含まれています。とくに院外で突然の心停止に陥った患者を救うには、①心停止の予防 ②早期認識と通報 ③一次救命処置 ④二次救命処置と心拍再開後の集中治療の4つの救命の連鎖が重要であると定義いたしました。新しく予防の重要性を掲げ、次いで実際の発生時に特に迅速な除細動と確実な胸骨圧迫をくり返して市民の方々に学んでもらうことが最重要と位置づけられています。

とくに一般市民が行う自動体外式除細動器（AED）を用いた除細動は、現在までの心肺蘇生法60年の歴史の中で最も有効かつ進歩した処置であり、そのことは2004年以来、わが国からAEDの有効性を示す多くのすぐれた研究結果が世界に向けて発表され証明されてきました。2012年4月現在、我が国のAEDの設置数は35万台を超え世界有数の設置国となりました。実際、救急救命士が現場に到着するよりも前に、一般市民により胸骨圧迫とAEDによる除細動が行われた場合、その蘇生効果は2倍以上にも達することが分かりました。このことはもっと世界に向けて、その効果を発信すべきと考えています。

しかし一方、AEDの処置は現場で突然倒れた人のわずか2%しか処置されておらず、使用方法のさらなる普及が必要であります。さらには任意に設置されたAEDの管理や登録、そしてメンテナンスなどが十分でなく使用に際しての障害となっていることも事実です。

我々日本救急医療財団では、このような問題点を解決するために、2010年より日本損害保険協会の援助を受けAED普及啓発事業を実施してまいりました。専門家・有識者による問題解決のための協議により少しずつこの問題が解決されつつあります。そしてその結果をAED普及啓発事業の一環として今回、非医療従事者の方にむけてAED普及啓発シンポジウムで発表させていただくことになりました。

今回のシンポジウムのねらいは、これまで専門家が指摘をした議論をベースに非医療従事者の方によるAEDの使用をいかに増やすか、そのため、今後どのような講習方法をとればいいのかを、AED設置やその中の医療データをどの様に活用すべきかについて、医師からの視点だけでなく、AEDを使用する一般市民の目線で考えることを目的として開催させていただきます。今回の2010ガイドラインですが、どう変わったかを含め、分かりやすく説明してもらえと思います。また、今後さらなるAEDの普及・啓発活動を進め、市民の命を守るため、安心して安全な街作りを構築していきたいと考えています。どうぞみなさまふるってご参加ください。



坂本哲也 先生

シンポジウム実行委員長 坂本 哲也

昨日まで元気だった人が、突然の心停止にみまわれて貴重な命を落とすことは決してまれな出来事ではありません。市民による心肺蘇生とAEDの使用により一命を取りとめ、それまでの生活に戻るまで回復できる人は増えつつありますが、いまだ犠牲者のごく一部に留まっています。本シンポジウムをとおして、折角のAEDが少しでも多く活用されるためにはどうしたらいいのかを、受益者でもある市民の皆さまと一緒に考えたいと思います。

「AEDを含む心肺蘇生教育を学校内で普及するために」

座長／京都大学環境安全保健機構附属健康科学センター講師 石見 拓 国士舘大学大学院救急システム研究科教授 田中 秀治

2011年9月に文部科学省より、小学校5年生以上を対象とした心肺蘇生講習について、各学校へ周知が図られたところです。これをうけて学校内ではどのようにAEDや心肺蘇生を教えるべきなのか、どのような問題点があるのかを文部科学省のご講演もいただきながら議論いたします。

- ① 学校における心停止症例の発生状況と課題 九州大学医学研究院先端医療医学部門災害救急医学助教 漢那 朝雄
- ② 学校におけるAED普及プログラムの在り方～誰がどのように教えるのか?～ 日本赤十字社 加藤 啓一
- ③ 突然死事例の教訓を生かした取り組み～ASUKAモデル～
心肺蘇生教育・AED普及における教育委員会の役割と普及の実践 さいたま市教育委員会 桐淵 博
- ④ 全国での学校でのAED普及の取り組み 文部科学省スポーツ青少年局
- ⑤ 相互討論

—— 休 憩 ——

「AEDを含めた心肺蘇生のさらなる普及の戦略」

座長／九州大学医学研究院先端医療医学部門災害救急医学助教 漢那 朝雄 近畿大学医学部救急医学主任教授 平出 敦

大学教職課程や自動車教習所における心肺蘇生普及、福岡市消防局指令センターにおける口頭指導の実演—効果的な口頭指導の実演—、蘇生ガイドラインG2010 EIT 何がどこまで達成されているのか、AEDの教育普及に関するWG会議からの提案を行いフロアの方々と意見交換いたします。

- ① 大学教職課程や自動車教習所における心肺蘇生普及 国士舘大学 高橋 宏幸
- ② 福岡市消防局における口頭指導とその効果
心停止を疑う通報に対する口頭指導の実演—効果的な口頭指導の実演— 福岡市消防局 四島 弘／梅田智子
- ③ 蘇生ガイドラインG2010 EIT 何がどこまで達成されているのか 京都大学環境安全保健機構附属健康科学センター講師 石見 拓
- ④ AEDの教育普及に関するWG会議からの提案 国士舘大学大学院救急システム研究科教授 田中 秀治

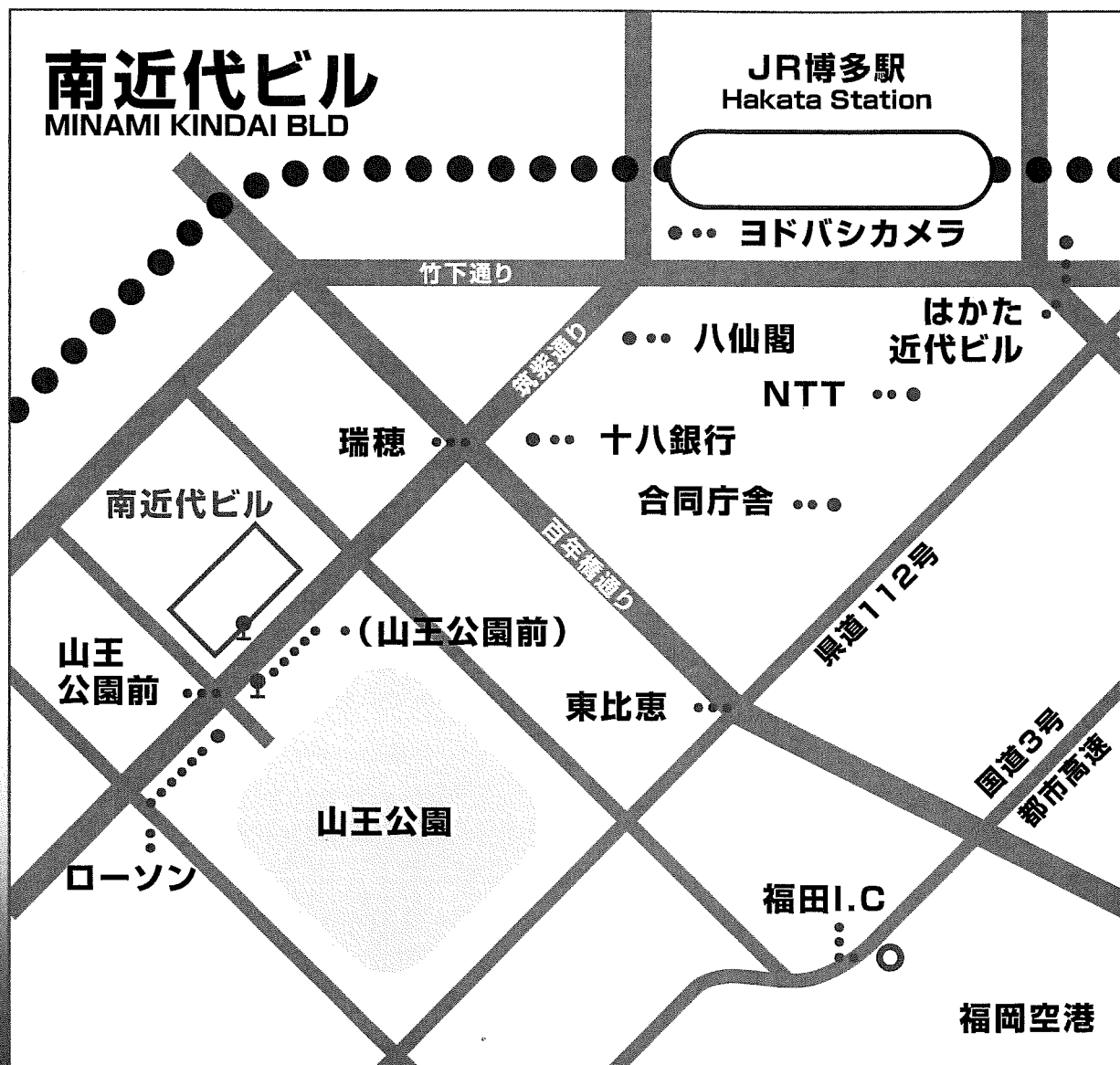
「AEDの設置基準とデータ利用について今後の方向性について」

座長／日本医科大学高度救命救急センター主任教授 横田 裕行 近畿大学医学部救急医学主任教授 平出 敦

我が国のAED設置はすでに40万台を超え1年間に1,300名以上がAEDで救命されるようになってきました。しかし設置する基準やAEDに内蔵されたデータをどのように利用するかなど、いまだ解決されていない問題もあります。第三部では普及が進んできたAEDのデータ利用に関わる課題とWG会議からの2年間の議論の結果について提案を行いフロアの方々と意見交換いたしたく存じます。

- ① AEDのデータの利用の効果と今後の試験的運用 帝京大学医療技術学部教授 小菅 宇之
- ② AEDのデータ利用におけるMC医の役割について 大阪市立大学大学院医学研究科救急生体管理学講師 西内 辰也
- ③ AED設置とAED条例案についての提案
- ④ AEDのデータ利用・検証に関するWG会議からの提案 日本医科大学高度救命救急センター主任教授 横田 裕行
- ⑤ AEDの設置基準と保守管理等に関するWG会議からの提案 近畿大学医学部救急医学主任教授 平出 敦
- ⑥ 相互討論

会場へのアクセス



- 所在地 / 〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南4丁目2-10
- 交通 / 博多駅から西鉄バス…博多駅から5分 (5分間隔で運行) 博多バスターミナル13番のりば (8、17、29、40、44、45番) 「山王公園前」下車 / タクシー…博多駅から5分 / 福岡市営地下鉄…空港線東比恵駅下車 徒歩10分
空 港 か ら 福岡市営地下鉄…空港線東比恵駅下車 徒歩10分 / タクシー…福岡空港から9分

※参加費および申込方法

参加費は無料です

申込方法は当財団のホームページ記載のフォームに入力してお申込みください。
<http://www.qqzaidan.jp/>

お問い合わせは一般財団法人日本救急医療財団にお願いします。



一般財団法人日本救急医療財団

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-37-4 CIC湯島ビル7F

電話：03-3835-1199・03-3835-0099 ファックス：03-3835-0299

<http://www.qqzaidan.jp/>